

Weekly Market Report

NAPHTHA C&F JAPAN

Price Data

C&F JAPAN (ドル/MT)

5月後半着	1062.00	(5.50)
6月前半着	1056.00	(4.00)
6月後半着	1051.25	(2.75)
7月前半着	1047.75	(1.75)
7月後半着	1045.00	(1.00)

15日午後6時時点の価格、()内は前週最終営業日との比較

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム (ドル/MT)

(千葉到着ベース)	COUNT30 日前	COUNT45 日前
5月前半着	+ 13.38	+ 8.00
5月後半着	+ 10.50	+ 6.38
6月前半着	+ 7.63	+ 4.50
6月後半着	+ 5.38	+ 2.88

算出時の原油価格 (ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月	
NYMEX/WTI	JUN	108.37
ICE/BRENT	JUN	121.87

Market Comment

前週のナフサ C&F JAPAN は 1053.625 ドルと小幅続伸、クラックスブレッドは上昇。原油高からナフサ価格も上昇し、高値に対する警戒感はあるもののナフサの供給量が減少し、アジアのファンダメンタルズは逼迫した状態にあることからクラックスブレッドは上昇した。

週初はナフサ価格が大きく 1000 ドルを超え推移しているにもかかわらず、石化製品価格の上昇は見られず、クラッカーのマージンの悪化が懸念され利食い売りを誘う展開となった。前週活発にナフサをスポット調達していたエンドユーザーの動きも見られず、マーケットには一服感が広がった。また、日本では大きな余震が続いていることや福島原発がレベル7に引き上げられたことから、景気に対する懸念材料が再びクローズアップされ弱材料として取り上げられた。

しかし、週中よりムードは一転、欧州市場に引っ張られる形で買い手が積極的な動きを見せ、マーケットは堅調に推移した。アジアのファンダメンタルズは、通常需要に対して供給が足りていない状態にある。そのためアジア域外から月間 40-50 万トンのナフサがアジア市場に流入してくる。その多くは欧州市場から仕向けられており、欧州からナフサがどの程度流入するかがアジアのファンダメンタルズを大きく左右している。その欧州市場だが、堅調なガソリン市場を背景にしたガソリンブレンダーからのナフサ需要や、米国やブラジルなど域外に大量のナフサが流出して逼迫した状態にあった。しかし、通常月間 70-80 万トンのナフサが供給過剰になっていると言われており、徐々に逼迫感が薄れるとの見方が根強かった。また、欧州では春先の纏まった製油所の定修が終了すると、自ずとナフサの供給が増えるとの見方があり、先安観が強かったことから買い控えが見られた。しかし、欧州市場の逼迫感は薄れず、ナフサが足りていない状況が続いた。買い控えや先安観からナフサのタンク在庫は低く、供給の余力が見られない状況のうえ、米国やブラジルのガソリンブレンダーからのナフサ需要が続き、逼迫した状態が続いている。そのため買いを手控えていた買い手は慌てて調達に動き、欧州市場は再び強く推移した。それによりアジアにも玉が流れることはなく、アジア市場も追随する形で堅調に推移した。アジアの需給逼迫感が強まり、クラックスブレッドは上昇。一方、原油価格が一服したことで、ナフサ価格は小幅上昇となった。

今週のアジア市場は、引き続き欧州市場の動きに左右されるだろう。アジアのファンダメンタルズは逼迫した状態にあることから、欧州市場からの玉の流入が見られないと、堅調に推移することが想定される。

Daily Chart

C&F JAPAN (ドル/MT)



Weekly Market Report

NAPHTHA MOF

Price Data

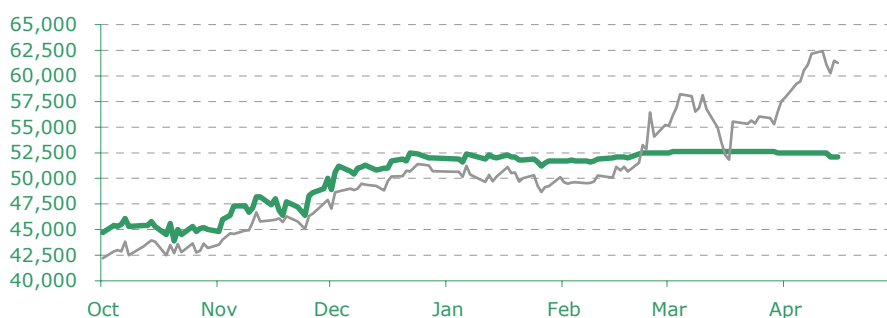
ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	予想値 / 評価値			速・確報値	予想値 / 評価値	速報値
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	円/KL	円 KL	円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(1,032)		
11-1Q			50,120		52,100	(400)
11-Apr	983.26	82.45	56,342	(3)		
11-May	1,039.00	83.69	60,436	(1,032)		
11-Jun	1,058.21	83.70	61,561	(1,010)		
11-2Q			59,446		61,400	(700)
11-Jul	1,054.80	83.72	61,374	(1,087)		
11-Aug	1,051.60	83.74	61,200	(1,169)		
11-Sep	1,049.01	83.76	61,063	(1,231)		
11-3Q			61,213		63,200	(1,200)
11-Oct	1,046.72	83.78	60,948	(1,281)		
11-Nov	1,044.47	83.81	60,837	(1,337)		
11-Dec	1,042.22	83.84	60,728	(1,394)		
11-4Q			60,838		62,800	(1,400)
12-Jan	1,039.97	83.88	60,623	(1,440)		
12-Feb	1,037.62	83.92	60,517	(1,465)		
12-Mar	1,034.71	83.96	60,378	(1,494)		
12-1Q			60,506		62,500	(1,500)

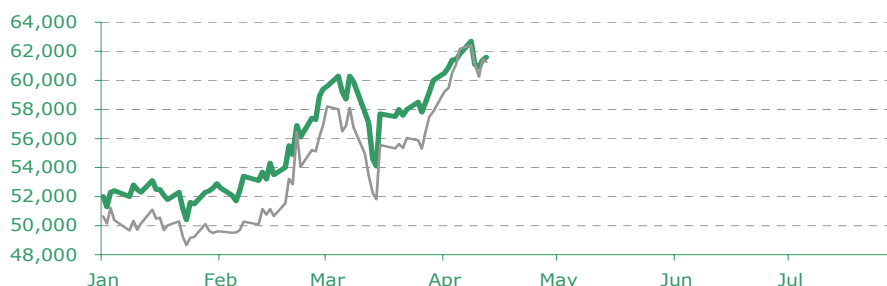
予想値は太字での表記
 MOF(国産) 価格の評価値は予想値ではなく 15 日午後 6 時時点での理論上の計算値
 ()は前週最終営業日の予想値および評価値との比較
 換算比重は 0.695
 為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

Daily Chart

11-1Q 国産ナフサ評価値/予想値 (円/KL)



11-2Q 国産ナフサ評価値/予想値 (円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移(午前 10 時時点)
 細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Weekly Market Report

CRUDE OIL & OIL PRODUCTS

Price Data

Crude Oil (ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/WTI	MAY	109.66	(3.13)
	JUN	110.22	(3.15)
ICE/BRENT	JUN	123.45	(2.67)
	JUL	123.12	(2.52)

Oil Products (セント/gal) (ドル/MT)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/RBOB	MAY	328.92	(2.85)
NYMEX/Heating Oil	MAY	322.42	(9.55)
ICE/Gas Oil	MAY	1024.50	(23.75)

Market Comment

前週の原油相場は急反落。利益確定を進める動きに拍車が掛かり、売りが売りを呼ぶ展開から一気に105ドル台まで値を崩した。その後、下げ幅縮小の動きとなるも、約2年半ぶりの高値から離れている。

週初は高値を更新して始まった。前々週末までの強地合いを引き継ぎ、WTI 期近5月限は一時113.46ドルまで上昇した。しかし、国際通貨基金(IMF)が公表した最新の世界経済見通しのなかで、日米の経済成長予測が下方修正されたことで、エネルギー需要の伸び悩みが意識された。また、景気回復を阻害するほどではないとしたものの、新興国で発生しているインフレ加速や原油価格高騰が世界経済の新たな脅威となっていると指摘。高値警戒感が強まるなか、IMFの経済見通しに加えリビアの停戦観測も浮上し、市場のムードはこれまでとは一転して売り優勢に転じた。タイミングを同じくして、米金融大手ゴールドマン・サックスが、最近の原油価格の上昇を受けて、利益確定売りを推奨したことも売り急ぐ流れに拍車をかけた可能性がある。手仕舞い売りが一気に集まったことで、節目のWTI期近5月限は110ドルの節目を割り込んだ。

持ち高調整中心の軟調な流れとなるなか、IMFに続いて国際エネルギー機関(IEA)も原油価格の上昇は世界経済に打撃を与えると警告。また、ゴールドマン・サックスが手仕舞い売り推奨に続き、原油相場のトレンドを上昇から下落に転換したとの予測を出したことで、さらに売り圧力が強まる格好となった。12日には、一時105ドル台へと値を崩すなどボラタイルな動きに。このまま下げ足を速めて一気に投げ相場へと発展するかと見られたが、売り先行の流れではあったもののオープンインタレストは増加しており、一旦整理売りは一巡したとみられる。

米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計で、ガソリン在庫が予想以上に急減したことを受け、RBOB相場が急速に切り返した。2営業日で最大で8ドル近く急落した原油相場だが、RBOB相場の反発に連れ値を戻す動きに転じた。急落により売られ過ぎ感が強まり、ポジション整理が一巡したことで、値ごろ感から押し目買いや買戻しが入った格好である。ただし、WTIの受渡場所であるクッシングの原油在庫は過去最高水準へと積み上がっており、原油需給に強材料が見当たらないことから上値は限定的となっている。その後、ドル安を背景とした買いに支えられているが、直近高値を窺うほどの勢いはない。中東や北アフリカの地政学的リスクが煽っていることから底堅さはあるとはいえ、市場のムードがやや弱気にあることから、上値を買い進むには新規材料が必要であろう。ファンドにより買い越しが強まっているだけに、ベアな材料が出てくると、急速に値を崩す可能性が高く、下振れリスクが高い状態にあると判断する。

Daily Chart

NYMEX/WTI 期近日足 (ドル/bbl)



Weekly Market Report

PETROCHEMICALS MARKET COMMENT

Aromatics

BTX/Styrene Monomer

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1200ドルを挟んでの動き。他の芳香族は、トルエンは上昇基調継続から週初に1450ドルを上抜いたが、その後は決め手材料難から方向性の乏しい動きとなっている。一方のパラキシレン(PX)は、前々週後半の戻りが一巡し、1600ドル割れ水準へと再び値を崩している。中国のポリエステル需要が引き続き減少しており、誘導品である高純度テレフタル酸(PTA)からの引き合いは乏しい状況にある。

アジアのベンゼン市況は、前々週の戻り歩調を継続し、週初には3月中旬以来となる1200ドル台を示現した。川上原油相場が騰勢を強めたことやナフサ市況の急騰もあり、相対比較から割安感が意識されるとともに先高観から中国で仮需による買いが先行した。韓国の麗川NCCが、ベンゼン生産能力20万トン/年のアロマプラントを定修入りさせたことも支援材料に。しかし、その後原油相場が急落したことで、市場のセンチメントは弱気に傾き、上値重い商状となっている。マージンが回復傾向にあった主要誘導品スチレンモノマー(SM)も上げ渋りの様相となり、川下サイドからのコスト見合いでの引き合いも一服した。さらに、中国人民銀行がインフレ抑制に向け、今年2回目の利上げを実施したことも圧迫要因として影響している模様。利上げによる需要低下見通しは川下誘導品にも及び、カプロラクタム(CPL)市況は大きく下落している。震災後に操業を一時停止した日本のプラントでの再稼働も見られており、需給タイト感が後退していることで、市場のムードは弱気に傾いた。総じて弱材料が目立ったことで、軟調気味に推移したが、週後半にかけては再び原油相場が切り返したことで、値を戻す動きとなっている。ブルベア要因がまちまちであり、目先は原油相場主導の動きとなる。なお、対ナフサとのスプレッドは、縮小傾向を継続して150ドルを割り込んでいる。ナフサとの相対比較からは割安感がある。

Olefins

Ethylene/Propylene

前週のアジアのエチレンマーケットは小高い。ナフサ市況の上昇に連れ、C&F NE ASIA1400ドル目前まで値を上げている。ただし、高水準な在庫やプラントの高稼働と、需給ファンダメンタルズは概ねベアな要因が多く見られており、引き続きマージンは圧縮傾向。また、利上げによる中国のエンドユーザーから引き合い低下の可能性もあり、小幅に値位置を切り上げつつも下振れリスクが高まっている。

前週のアジアのプロピレンマーケットは続落。FOB KOREA1550ドル割れへと値を崩している。需給タイト感を背景に昨年末から上昇基調を継続してきたが、特段目新しい買い材料に乏しい状況が続いており、かつナフサ市況の上昇によりコスト見合いからの引き合いが低下している。主要誘導品であるポリプロピレンも横ばいの状態が続いており、定修明けには供給が増加する可能性もあることから、市場のムードは徐々にベアな状態へと移行しつつある。

Polymers

Polyethylene/Polypropylene

前週のアジアのポリエチレンマーケットは小幅まちまち。低密度ポリエチレン(LDPE)はC&F NE ASIA1680ドル水準でほぼ横ばい、直鎖状低密度ポリエチレン(LLDPE)は1380ドル水準、高密度ポリエチレン(HDPE)は1380ドル水準へと小幅に値を上げた。小幅に値を上げたものの、昨年10月から4回目となる中国の利上げの影響から、中国のエンドユーザーの引き合いが低下している模様。高水準な在庫もあり、需給ファンダメンタルズは総じてベアであり、一部のサプライヤーは欧州へと玉を向けているとの声も聞かれている。三菱化学の鹿島も来月下旬から順次稼働を再開する予定であり、供給面からの不安材料に乏しいことから、上値重く推移する可能性が高い。

前週のアジアのポリプロピレンマーケットは小動き。HOMOグレードは一時C&F NE ASIA1650ドルに達したが、その後は上げ幅を縮小している。買い手先行の流れではあるが、決め手材料の乏しい状況にあり、また実需が伸びている訳ではないことから、積極的な購買に動いてはいない。定修入りしているアジア域内のPPプラントは多いが、今後順次再稼働する予定であり、供給量が増えることが見込まれる。

Polystyrene/ABS

前週のアジアのポリスチレンマーケットは小反発。GPPSはC&F NE ASIA1580ドル。中国の建築資材向けのEPS規制が強化されるとのことで下落していたが、ここにきてその規制が緩和されることが明らかとなり、EPS需要に対する楽観的見方が買いに繋がっている。また、原料SM市況が上昇したことにもサポートされている。

前週のアジアのABSマーケットは反発。一時2300ドル台を回復する場面も見られた。原油・ナフサ高から原料ブタジエン市況が強含みで推移しており、原料高に牽引される格好で値を上げている。ただし、インフレリスクの抑制策として中国が利上げを実施したことで、悲観的な見方の市場参加者が増えている点には注意が必要である。

Weekly Market Report

FUNDAMENTALS & WEEKLY TOPICS

「2月のABS輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のABS輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比761トン減の2093トン、輸入価額は4億2431万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、韓国が40%、台湾が36%、マレーシアが12%、中国が11%、タイが1%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比3円安の203円/kg。貿易統計上のABS統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
大阪	マレーシア	64,000	10,410	163	1,950	-	1,989
名古屋	マレーシア	48,000	7,808	163	1,950	-	1,990
新潟	マレーシア	16,000	2,661	166	1,994	-	2,034
東京	マレーシア	130,000	22,699	175	2,093	-	2,136
敦賀	韓国	83,000	14,817	179	2,140	-	2,183
清水	台湾	91,000	16,492	181	2,173	-	2,217
門司	台湾	3,000	544	181	2,174	-	2,218
和歌山	韓国	38,000	7,023	185	2,215	-	2,260
千葉	台湾	16,000	2,983	186	2,235	-	2,280
福山	韓国	19,000	3,591	189	2,266	-	2,312

(出所:財務省)

「2月のGPPS輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のGPPS輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比905トン減の1253トン、輸入価額は1億6726万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、台湾が58%、韓国が15%、タイが11%、中国が11%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比6円高の134円/kg。貿易統計上のPS統計値は、一般品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで一般品の輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
四日市	台湾	140,000	16,999	121	1,456	-	1,485
名古屋	タイ	39,000	4,903	126	1,507	-	1,538
東京	台湾	106,700	13,417	126	1,507	-	1,538
大阪	中国	114,000	14,349	126	1,509	-	1,539
大阪	韓国	48,500	6,154	127	1,521	-	1,552
博多	台湾	18,000	2,284	127	1,521	-	1,552
和歌山	韓国	18,500	2,389	129	1,548	-	1,579
名古屋	韓国	120,000	15,514	129	1,550	-	1,581
大阪	台湾	311,000	40,236	129	1,551	-	1,582
名古屋	台湾	12,000	1,571	131	1,569	-	1,601

(出所:財務省)

「2月のPVC輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のPVC輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比6トン増の511トン、輸入価額は6295万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、タイが47%、ドイツが24%、韓国が8%、米国が7%、台湾が7%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比16円安の123円/kg。貿易統計上のPVC統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
大阪	タイ	76,550	6,468	84	1,013	-	1,033
大阪	台湾	22,000	1,866	85	1,017	-	1,037
名古屋	タイ	104,200	8,851	85	1,018	-	1,039
苫小牧	タイ	48,400	4,194	87	1,039	-	1,060
神戸	中国	24,000	2,169	90	1,083	-	1,105
名古屋	韓国	20,000	2,132	107	1,278	-	1,304
東京	台湾	15,500	1,659	107	1,283	-	1,309
敦賀	タイ	12,000	1,667	139	1,665	-	1,699
横浜	韓国	10,800	1,552	144	1,723	-	1,758
東京	韓国	9,600	1,380	144	1,723	-	1,758

(出所:財務省)

Weekly Market Report

「2月のLDPE輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のLDPE輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比281トン減の778トン、輸入価額は1億6046万5000円となった。原産地別輸入数量の割合は、ベルギーが28%、中国が23%、韓国が15%、タイが14%、オランダが13%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比16円高の206円/kg。貿易統計上のLDPE統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
門司	米国	12,375	1,628	132	1,577	-	1,609
新潟	韓国	40,000	5,433	136	1,628	-	1,661
博多	韓国	14,000	1,937	138	1,659	-	1,692
東京	タイ	71,000	10,268	145	1,734	-	1,769
横浜	米国	14,996	2,180	145	1,743	-	1,778
博多	タイ	15,000	2,324	155	1,857	-	1,895
名古屋	タイ	24,000	3,728	155	1,862	-	1,900
横浜	ベルギー	219,100	37,530	171	2,053	-	2,095
清水	中国	11,600	2,153	186	2,225	-	2,270
大阪	韓国	14,500	2,761	190	2,283	-	2,329

(出所:財務省)

「2月の中国LDPE国別輸入数量トップ10」

LDPE

輸入先	2011年2月		CIF CHINA
	数量	価額	単価
	(MT)	(ドル)	(ドル/MT)
合計	65,484	108,272,662	1,653
前月比	▼ 40,768	▼ 67,828,621	▼ 4
前年同月比	▼ 60,697	▼ 73,921,518	210
数量TOP10			
イラン	10,043	15,536,731	1,547
マレーシア	6,943	10,557,292	1,520
日本	6,149	9,968,773	1,621
サウジアラビア	5,869	9,198,753	1,567
ロシア	5,795	9,421,770	1,626
カタール	5,638	8,734,326	1,549
韓国	4,873	7,740,793	1,589
米国	4,276	8,595,054	2,010
タイ	4,137	7,023,411	1,698
ドイツ	3,170	6,714,318	2,118

参考

輸入先	2011年2月		CIF JAPAN
	数量	単価	単価
	(MT)	(円/kg)	(ドル/MT)
合計	778	206	2,505
TOP3			
ベルギー	219	171	1,510
中国	183	217	1,639
韓国	115	170	1,657
スポット市況 (\$/mt)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,644~1,676	1,659~1,701	1,698~1,726

(出所:中国海関総署)

「“NAP MOF PRICE AVE+2000” INDEX = ナフサ輸入価格単純平均 + ¥2000/KL」

(単位:円/KL)

期間(3ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率	期間(6ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率
10 Oct - 10 Dec	45,200	0%	10 Jul - 10 Dec	43,900	0%
10 Nov - 11 Jan	48,000	0%	10 Aug - 11 Jan	45,100	0%
10 Dec - 11 Feb	50,700	0%	10 Sep - 11 Feb	46,800	0%
11 Jan - 11 Mar	52,200	33%	10 Oct - 11 Mar	48,700	17%
11 Feb - 11 Apr	54,500	67%	10 Nov - 11 Apr	51,300	33%
11 Mar - 11 May	58,000	100%	10 Dec - 11 May	54,300	50%
11 Apr - 11 Jun	61,400	100%	11 Jan - 11 Jun	56,800	67%
11 May - 11 Jul	63,100	100%	11 Feb - 11 Jul	58,800	83%
11 Jun - 11 Aug	63,400	100%	11 Mar - 11 Aug	60,700	100%
11 Jul - 11 Sep	63,200	100%	11 Apr - 11 Sep	62,300	100%
11 Aug - 11 Oct	63,100	100%	11 May - 11 Oct	63,100	100%
11 Sep - 11 Nov	62,900	100%	11 Jun - 11 Nov	63,200	100%
11 Oct - 11 Dec	62,800	100%	11 Jul - 11 Dec	63,000	100%
11 Nov - 12 Jan	62,700	100%	11 Aug - 12 Jan	62,900	100%
11 Dec - 12 Feb	62,600	100%	11 Sep - 12 Feb	62,800	100%
12 Jan - 12 Mar	62,500	100%	11 Oct - 12 Mar	62,700	100%

算出には15日18時時点のナフサMOF評価値及び予想値を使用。Amerex占有率は上記算出におけるAmerexのナフサMOF評価値及び予想値の使用率を示す。

Weekly Market Report

「2月の韓国合成樹脂輸出」

韓国の2011年2月のポリオレフィン、PS、ABSなど合成樹脂輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOR A (U \$/mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
PP (ホモ)	53,915	89,27,643	1,655	中国	30,168	1,628
前月比	9,446	10,960,690	74	香港	5,226	1,625
前年同月比	5,522	6,238,323	259	ベトナム	4,344	1,603
PP (コポリマー)	104,595	173,548,387	1,59	中国	46,927	1,640
前月比	17,593	21,898,99	60	香港	6,980	1,630
前年同月比	1,643	23,439,855	246	インドネシア	5,37	1,677
LDPE	16,989	30,959,759	1,822	中国	5,094	1,652
前月比	1,189	1,184,843	54	台湾	1,910	1,885
前年同月比	3,580	3,250,902	159	インド	1,642	892
LLDPE	36,430	54,04,178	1,496	中国	14,184	1,457
前月比	11,672	14,694,033	58	ベトナム	3,324	1,549
前年同月比	2,412	2,086,901	39	日本	3,124	1,564
HDPE	81,859	117,770,254	1,439	中国	52,294	1,46
前月比	15,683	19,787,659	28	ロシア	3,575	1,484
前年同月比	315	2,556,235	37	カザフスタン	3,301	1,480
PPS	18,282	29,393,639	1,608	中国	3,644	1,501
前月比	1,856	2,439,653	33	アルジェリア	2,026	1,576
前年同月比	5,355	8,477,530	10	メキシコ	1,456	2,038
HIPS	25,181	45,097,551	1,791	中国	9,469	1,708
前月比	2,736	4,113,821	28	香港	3,783	1,821
前年同月比	3,381	9,822,658	173	ベトナム	1,877	1,739
ABS	110,476	275,157,844	2,491	中国	43,643	2,492
前月比	575	6,670,956	48	香港	20,757	2,357
前年同月比	10,648	76,906,899	505	メキシコ	4,319	2,651
PVC	44,384	50,358,927	1,135	インド	14,610	1,038
前月比	6,881	5,707,800	41	中国	8,335	1,290
前年同月比	1,438	2,069,287	81	イラン	6,602	1,096

(出所:韓国貿易協会)

「2月の韓国エンブラ輸出」

韓国の2011年2月のエンブラなど合成樹脂輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
PMMA	6,644	21,312,302	3,208	中国	4,145	3,112
前月比	1,937	6,219,109	1	メキシコ	411	3,736
前年同月比	1,232	4,252,724	1,042	インド	456	3,302
POM	7,100	14,405,013	2,029	中国	1,736	1,998
前月比	1,002	1,643,915	48	米国	797	1,832
前年同月比	365	1,756,686	334	香港	665	1,910
PPG	23,826	51,539,441	2,163	中国	3,286	2,159
前月比	1,321	1,817,523	41	インド	2,266	2,012
前年同月比	4,640	16,827,388	354	ナイジェリア	1,831	2,247
m-PPE など	9,124	19,511,360	2,138	中国	7,213	1,926
前月比	1,478	2,519,692	84	ベトナム	836	2,977
前年同月比	1,757	4,625,651	118	日本	354	3,945
PC	26,099	84,825,867	3,250	中国	16,168	3,223
前月比	4,268	11,382,594	82	香港	2,888	3,202
前年同月比	1,605	16,565,412	463	ハンガリー	1,069	3,700
PET	59,642	103,947,888	1,743	ロシア	9,309	1,749
前月比	5,716	2,356,284	188	日本	5,780	1,836
前年同月比	11,646	10,460,616	431	カザフスタン	3,565	1,704
PBT	1,392	5,089,166	3,656	中国	466	3,241
前月比	114	480,169	43	日本	148	4,726
前年同月比	168	1,288,010	551	ベルギー	96	4,865
PA-6	6,259	21,890,902	3,498	中国	4,723	3,423
前月比	758	414,032	319	インドネシア	716	3,523
前年同月比	1,006	7,474,101	753	香港	143	4,588
PA-6.6	5,574	19,713,793	3,537	中国	2,348	3,594
前月比	523	1,966,286	23	タイ	1,617	3,201
前年同月比	712	4,521,018	412	日本	310	4,020
ポリウレタン	3,142	11,792,351	3,753	中国	1,103	3,522
前月比	213	10,095,367	2,771	日本	245	5,313
前年同月比	495	2,758,800	340	ベトナム	273	4,112

(出所:韓国貿易協会)

Weekly Market Report

「2月の韓国中間原料 輸出」

韓国の2011年2月の二塩化エチレン、DOPなどの中間原料輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量 (mt) FOB KOREA	
二塩化エチレン	21,022	10,087,545	480	日本	11,006	485
前月比	10,517	5,041,396	0	マレーシア	5,009	492
前年同月比	10,496	5,520,568	46	中国	5,007	456
塩化ビニルモノマー	6,557	5,474,231	835	日本	2,504	825
前月比	2,097	1,760,782	1	中国	2,201	850
前年同月比	3,827	2,682,322	49	フィリピン	1,853	830
ブタノール	6,533	6,196,757	948	中国	6,533	949
前月比	6,533	6,196,623	6,496	—	—	—
前年同月比	1,727	754,680	290	—	—	—
オクタノール	10,063	18,150,498	1,804	中国	7,983	1,819
前月比	2,065	4,060,192	42	ベトナム	2,004	1,741
前年同月比	5,028	10,712,721	326	香港	57	1,860
プロピレングリコール	5,876	9,925,257	1,689	米国	1,360	1,595
前月比	1,057	2,038,512	53	中国	843	1,701
前年同月比	39	1,830,315	302	台湾	768	1,628
1,4 ブタンジオール	484	1,236,927	2,556	インド	252	2,532
前月比	64	116,413	88	中国	164	2,494
前年同月比	596	491,949	954	香港	32	2,750
ネオペンチルグリコール	3,137	6,189,541	1,973	中国	2,022	1,976
前月比	1,520	2,696,103	65	台湾	282	1,897
前年同月比	181	775,804	341	タイ	176	1,994
ジエチレングリコール	3,134	4,065,691	1,297	中国	2,799	1,291
前月比	2,157	2,771,239	28	ベトナム	162	1,296
前年同月比	1,002	1,919,320	290	バングラデッシュ	72	1,250
エピクロロヒドリン	530	1,197,993	2,260	中国	141	2,265
前月比	7	92,565	146	米国	149	2,112
前年同月比	940	1,161,698	655	インド	113	2,446
アセトン	7,209	6,416,119	890	中国	4,807	862
前月比	2,559	1,194,350	111	インド	1,166	1,014
前年同月比	1,500	1,017,171	56	タイ	951	833
無水マレイン酸	1,461	2,202,085	1,508	シンガポール	302	1,506
前月比	515	782,370	7	インド	280	1,498
前年同月比	42	352,971	277	オーストラリア	156	1,495
DOP	16,105	30,584,717	1,899	インド	3,603	1,868
前月比	4,134	6,788,911	52	ロシア	1,335	1,932
前年同月比	4,575	11,848,707	274	中国	1,232	1,753
無水フタル酸	13,515	17,157,578	1,269	インド	2,553	1,278
前月比	3,324	3,613,073	36	サウジアラビア	2,374	1,331
前年同月比	2,743	1,713,265	109	インドネシア	1,534	1,254
カプロラクタム	1,088	3,628,457	3,335	中国	1,088	3,335
前月比	0	408,339	375	—	—	—
前年同月比	1,216	1,883,767	942	—	—	—

(出所:韓国貿易協会)

「2月のエチレン換算輸出、前年同月比9.6%減 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は8日、2月のエチレン換算(エチレンおよびエチレン誘導品のエチレン換算量)輸出入を発表した。同統計によると、2月のエチレン換算輸出量は前月比9.2%減の19万1800トンとなった。前年同月比では9.6%減と、3ヶ月連続のマイナスとなった。一方輸入量は前月比20.8%減の3万5800トン。前年同月に比べると2.9%上回っている。13ヶ月連続のプラス。

(単位:トン)

	数量	前月比	前年同月比	輸出入比率
輸出	191,800	19,500	9.2%	31.7%
輸入	35,800	9,400	20.8%	8.0%

(出所:経済産業省)

「3月のエチレン用輸入ナフサ価格、前月比358円高 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は13日、3月のエチレン用輸入ナフサ通関実績を発表した。同統計によると、3月のエチレン用輸入ナフサ価格は1KLあたり5万0498円と前月から358円上昇した。6ヶ月連続の上昇。輸入数量は前月比33万6869KL減(16.3%減)の172万4515KL。

	輸入数量(KL)	輸入数量(トン)	輸入金額(ドル)	単価(ドル/トン)	為替レート(円/ドル)	単価(円/KL)
2月実績	2,061,384	1,429,212	1,255,357,146	878.4	82.3	50,140
3月実績	1,724,515	1,193,398	1,057,462,109	886.1	82.4	50,498

(出所:経済産業省)

Weekly Market Report

「鹿島第2エチレンプラントは5月20日頃の再開見通し = 三菱化学」

三菱化学は8日、同社関係事業所における現時点までの状況について明らかにした。鹿島事業所においては、現在までにボイラーを含む自家発電設備が一部復旧したことで、地震発生後停止しているエチレン等の製造設備についての詳細点検を実施しており、必要に応じて補修をとり進めている。津波により被害を受けた港湾施設を含む出入荷設備も、急ピッチで補修を進めている。なお、再開見込みのスケジュールについては、鹿島第2エチレンプラントは5月20日頃の再開を目指しているという。また、PEやPPの一部の系列については、第2エチレンプラントの稼働に合わせて再開する見込み。鹿島第1エチレンプラントは、今年度計画していた定修(5月14日から)終了後の6月27日に再開を予定している。PE、PPの残りの系列およびBPA、EO等のその他誘導品については、第1エチレンプラントの稼働に合わせて順次再開する見通し。なお、筑波事業所については、11日をもって全ての製造設備の稼働を再開する予定。

「ブタジエンの長期売買契約を締結 = 双日」

双日は13日、南米最大の石油化学会社であるブラジルのプラスケムと、ブタジエンの長期売買契約を締結したことを明らかにした。2011年4月より5年半に亘り、ブタジエンを安定的に調達する。今回のブタジエン長期販売契約を通じて、戦略的パートナーシップをさらに強化し、より付加価値の高いブタジエン誘導品の事業化検討を進める。具体的には、タイヤ用合成ゴムやABS樹脂等の製造・販売の事業化に向けて、アジアのメーカーを誘致し、C4ケミカルチェーン展開の拡充を図る予定。なお、同社は40年におよぶ取引関係を有するプラスケムの最大外国人株主であり、プラスケムの親会社オーデブレイトとの共同出資会社ETH Bioenergia S.A.にて、バイオエタノール・砂糖製造事業を展開し、プラスケムがバイオエタノールとC4留分イソブチレンから製造するバイオマス燃料ETBEの輸出販売も手掛けている。

「シンガポール石油化学プラントの建設に韓国輸出銀行が6億2000万ドルを提供」

韓国輸出入銀行は8日、SKグループが25億ドルを投じて建設するシンガポールの石油化学プラントおよびその運営事業に対し、プロジェクトファイナンス(PF)方式で6億2000万ドルを融資することを明らかにした。この事業はジュロン石油化学団地内の55万平方メートルの敷地に、450万トン/年の石油化学製品プラントを建設し運営するもの。SKグループは、シンガポールの投資開発公社(EDBI)などと共同で事業を推進する予定。同銀行は高付加価値の海外投資開発事業を遂行するため、競争力のある中長期金融を提供し、国際的な商業金融の手配を積極的に拡大していく計画で、韓国企業の海外へのプロジェクトへの積極的な事業投資を期待している。

「カザフスタンのPPプラントへ13億ドルを投資 = LG化学」

韓国石化大手LG化学は、カザフスタンのポリプロピレン(PP)プラント(生産能力=55万1000トン/年)へ、最高13億ドルを投じることを検討している。プラント増設の総投資額は40億ドルと見積もられており、この投資により生産能力は88万2000トン/年へと拡大する見通し。カザフスタン政府は海外大手石油化学会社と提携し、石油化学コンプレックスの建設を進めており、同国エネルギー省は現在、アティラウの西カスピ海行政区にて投資パートナーを探している。その筆頭として、アブダビ政府が100%所有する政府系ファンドの国際石油投資会社(IPIC)が挙げられている。

「多結晶性シリコン事業に進出 = ハンファグループ」

韓国ハンファグループは11日、グループ企業である化学大手のハンファケミカルが1万トン/年のポリシリコンプラントを建設することを決議した。ハンファケミカルは約1兆ウォンを投入し、2012年初頭に麗水産業団地にポリシリコンプラントを建設、2013年後半からは商業運転に出る予定。ポリシリコン分野の独自の競争力を確保し、ポリシリコンからモジュールまでの太陽光発電事業の垂直系列化を完成させる。ハンファグループは昨年8月、太陽光メーカー大手のソーラーファンパワーホールディングスを買収し、400MW規模のインゴットとウエハーを生産している。また、500MWと900MW規模の太陽電池とモジュールの生産規模を、今年末までにそれぞれ1.3GW、1.5GWに拡大する予定。

「インド市場に投資拡大 = ハンツマン」

米国化学大手ハンツマンは、インドの化学市場に積極的に投資し、現地の多国籍企業の需要増に対応する計画がある。10日のウォールストリートジャーナルによると、ハンツマンは今後4-5年以内にインドでの売上の倍増を計画している。インドの化学品市場は90億ドルで、世界市場の4.5%を占めており、今後2-3年以内に400-500人の雇用を創出し、研究開発に1000万ドルを投資する。現在、同社はプロクターアンドガンブル(P&G)などの多国籍企業の需要の増加によりインドに工場を建設し、インドの化学メーカーとの協力のための現地企業4社を買収している。先週には生産能力が6万トン/年のエチレンオキシド(EO)プラントを持つインドの化学メーカーのラファンスベトロケミカルを買収が完了している。

「米国ポリシリコン工場着工 = ワッカーケミー」

独化学大手ワッカーケミーは、太陽光用ポリシリコン需要増に対応し、ポリシリコン生産能力を大幅拡張する。先週、米国テネシー州にある1万5000トン/年の新規ポリシリコンプラントの着工式を行った。2013年第4四半期に完工する予定。同社は、3月にドイツのブルクハウゼンとヌィンクリツにある第1工場および第2工場のポリシリコンプラントの増設を発表しており、ドイツ国内だけで1万トンのポリシリコン生産能力を増強し、2012年第4四半期に完工する予定である。これらの増設が完了すると、米国およびドイツのポリシリコンの生産能力が6万7000トン/年へと拡大する。

Weekly Market Report

「本社に家宅捜索 = 錦湖石油化学」

韓国メディアによると、12日に検察捜査官が韓国化学大手の錦湖石油化学の本社を訪問し、会計帳簿と会計ファイルが保存されたハードディスクを押収したという。検察は、錦湖石油化学が請負業者との取引において、コストを過剰支給し差額を取り戻す方法で秘密資金を作っていた証拠を握り、錦湖石油化学や関連する複数の取引先への捜査に着手したと伝えられている。昨年3月の経営復帰以来、合成ゴム産業の好況に支えられ、史上最大の実績を記録したが、経営危機に陥ることが予想される。

「社名を TRINSEO に変更 = スタイロン」

米化学大手スタイロンは13日、社名を2011年後半にTRINSEOに変更することを明らかにした。米化学大手ダウケミカルの元事業部門であるスタイロンは、昨年6月のペイン・キャピタル・パートナーズへの売却成立を受け、新会社として設立された独立型株式非公開企業。素原料から顧客、エンドユーザーを共通にする、プラスチックおよびゴム、ラテックス事業という独自の製品ポートフォリオを有した世界規模の大手原料メーカー。売上は約50億ドル(2010年度)、世界に20ヶ所の生産拠点を有す。

「高性能プラスチックのグローバル製造ネットワークを拡大 = ランクセス」

独特化学品メーカーのランクセスは、高性能プラスチックのグローバル製造ネットワークを拡大することを発表した。3月9日に米国で新コンパウンド工場の着工式を行い、さらに同社とデュボンが運営する合弁会社のコンパウンド工場の製造能力倍増を図る。ノースカロライナ州ガストニアに新設する製造施設は、初期製造能力2万トン/年を備え、米国において同社の高性能プラスチックを製造する初のコンパウンド工場となる。同工場では、ポリアミドやポリブチレンテレフタレート(PBT)などのベースポリマーを添加剤と混合・精製し、顧客ニーズに合わせた製品を製造する。2011年第2四半期に建設を開始し、2012年の稼働を予定している。デュボンとの合弁事業は、ドイツのハム・ユントロブのコンパウンド工場に追加投資し、PBTの製造能力を倍増する。製造開始は2012年を予定し、2004年に開設された同工場は、同分野において世界最大級となる。

「中国、2015年までにシェールガスの生産開始」

ブルームバーグによると、中国政府は環境負荷がより少ない燃料に対する需要に対応するため、2015年までにシェールガスの生産を開始する可能性が高いことが明らかにした。中国は10ヶ所以上のシェールガス田で試掘を行っており、シェール、シェブロンなどの海外企業とガス開発に関して共同開発することで合意している。中国政府は、シェールガスの確保によりエネルギー源を多様化し、2020年までに石炭への依存度を減少させ、天然ガスを全体のエネルギー消費の10%まで引き上げる構想を示している。中国のシェールガス埋蔵量は26兆立方メートルに達する。なお、中国では2009年に重慶市で中国初のシェールガス資源調査プロジェクトが始まっている。

「プロジェクトを進めないで2015年までにエチレンが不足」

台湾經濟部工業局によると、台湾中西部の彰化県での国光ナフサクラッカープロジェクトが打ち切られると、2015年までに台湾のエチレンは不足するという。台湾国営石油(CPC)の高雄にあるNo.5ナフサクラッカーが閉鎖する予定であるため、経済成長に歩調を合わせ石油化学製品需要も増加する見通しであるなか、エチレン不足に陥らないためにも必要な計画であるという。台湾でのエチレン生産量は、CPCのNo.5クラッカーからの50万トン/年を含むと300万トン/年に達し、同国のエチレン需要の97%を自国生産で賄えることになる。本プロジェクトが立ち上げられた当時、シンガポールでも石油化学産業へのプロジェクトが推進し始められ、シンガポールの石油化学パークは米国やオランダからの投資を受けて、今日では300万トン/年以上のエチレンを生産するに至っており、ライバル視する台湾の石油化学産業の脅威となっている。これ以上の遅れを取らないためにも、また4年から5年の間にエチレン不足に陥らないためにも、早期にプロジェクトを再開する必要がある。

「2011年の日本の石油需要見通しを上方修正 = IEA」

国際エネルギー機関(IEA)は12日、4月の石油市場月報を発表した。2011年の世界石油需要見通しは日量8936万バレルと前月見通しを据え置いた。日本の石油需要見通しは同445万バレルと、前月見通しから同15万バレルの上方修正。前月見通しでは前年比12万バレルの減少を見込んでいたが、福島原発事故を受けて火力発電への代替需要増が見込まれ、また震災からの復興需要でエネルギー消費が増加するとし、今回の見通しでは同3万バレルの増加へと上方修正した。世界全体としては、Non-OECD諸国で下方修正が見られた一方で、日本の需要見通しの上方修正を受けOECD全体で同9万バレルの上方修正となったことが相殺。2010年については同8793万バレルと同1万バレルの小幅上昇修正。これにより需要の伸びは前年比で同143万バレル増(1.6%増)と見通している。一方、供給面については、リビアの産油量が通常に比べ約70%減少し、石油輸出国機構(OPEC)全体としての供給量も落ち込んでいるという。なお、100ドルを超え高騰し続けている原油価格についてIEAは、世界経済に打撃を与えると警告している。

「2011年世界石油需要見通し、小幅上方修正 = OPEC」

石油輸出国機構(OPEC)が12日に発表した月報によると、2011年の世界石油需要見通しは日量8794万バレルと前月見通しから同11万バレル上方修正した。需要の伸びは同139万バレルへと同5万バレル下方修正された。OPECは、震災に伴う日本の需要減少は僅かであり、市場への影響は限定的であるとの見解を示している。一方供給面では、2011年の非OPEC加盟国の産油量は同5284万バレル(前月見通し同5279万バレル)と上方修正した。なお、3月のイラクを除く11カ国の産油量は前月比69万0100バレル減の日量2659万5000バレルと4ヶ月ぶりの減少。リビアの供給混乱については、その大部分を他の加盟国の増産により穴埋めしているという。

Weekly Market Report

「2011年原油価格見通し、106.38ドル = EIA」

米エネルギー情報局(EIA)は12日、4月の短期エネルギー見通しを発表した。同見通しによると、2011年の世界石油需要は日量8820万バレルと前月見通しを据え置いた。需要の伸びは前月見通しの同151万バレルから同152万バレルへと小幅上方修正。なお、2012年については同8976万バレルと見通している。向こう2年、中国やブラジル、中東地域のNon-OECD諸国での需要増が、引き続き世界全体の需要の伸びを牽引するという。OECD諸国については、欧州地域や日本などで需要の伸びが鈍化するものの、北米地域の伸びが相殺するとみている。供給面については、2011年の非石油輸出国機構(Non-OPEC)の産油量は日量5217万バレルと前月見通しから同42万バレルの大幅情報修正。2012年については同5240万バレルと見通している。一方OPECの原油生産量見通しは、2011年に日量2957万バレル(前年比13万バレル増)と前月見通しの同2955万バレルから小幅に上方修正している。中国が同14万バレル、ブラジルが同17万バレル、そして旧ソ連が同27万バレルの生産増加が期待される。2012年は同3071万バレル(同114万バレル増)と増加すると予測しているが、前月見通しの同3145万バレルからは大幅な下方修正。中国が同14万バレル、ブラジルが同11万バレルと引き続き増加するなか、カナダが同18万バレル増加すると予測。一方で、北海油田での生産は、今年が同11万バレル、来年は同23万バレル減少するとみている。OPECの生産量については、今年が同10万バレルの増加にとどまるが、来年は同110万バレル増加するとの見通し。余剰生産能力は、2010年末の同420万バレルから2011年末には同340万バレル、2012年末には同270万バレルへと低下するという。

なお、原油価格については、2011年通年では106.38ドルと前月見通しの101.77ドルから上方修正した。2012年は113.50ドルと見通している。